

国立研究開発法人審議会

第22回新エネルギー・産業技術総合開発機構部会 議事録

1. 日 時 令和4年7月19日（火） 17:00～18:00

2. 場 所 WEB会議

3. 議 題

- （1）議題1：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の令和3年度業務実績及び自己評価結果に対する意見聴取について
- （2）議題2：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の第4期中長期目標期間 終了時に見込まれる業務実績及び自己評価結果に対する意見聴取について
- （3）議題3：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の第4期中長期目標終了 時における業務・組織全般の見直し（案）に対する意見聴取について

出席委員

渡部部会長、高井委員、竹内委員、小川委員、羽生委員、熊崎委員

○渡部部会長 定刻になりましたので、ただいまから第22回経済産業省国立研究開発法人審議会の新エネルギー・産業技術総合開発機構部会を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、御多忙のところ、御出席いただきありがとうございます。

早速ですけれども、事務局から委員の御出欠の報告と資料の確認、本日の進行について御説明いただければと思います。

○金地室長 本日は、6名の委員の全員の方が御出席予定でございます。

現在、竹内委員が遅れられているという状況でございますが、定足数は満たしております。また、小川委員が所用により17時30分頃より途中出席されるということで伺っております。

本日の会議資料は事前に一式お送りいたしておりますので、各委員におかれましては御確認いただきますようお願いいたします。

また、会議資料や議事要旨等につきまして、当省のホームページに掲載することといたしております。あらかじめ御了承いただければと思います。

本日は、議題1、2につきまして、第21回に委員の皆様からいただいた御質問等に対し、NEDOより御回答いただき、評価に関する議論を深めていただければと思います。

また、議題3につきましては、第21回にて委員の皆様からいただいた御質問に対し、事務局から回答させていただき、御意見をいただければと思います。

以上でございます。

○渡部部会長      ありがとうございます。議題1ですが、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の令和3年度業務実績及び自己評価結果に対する意見聴取。それから、議題2が第4期中長期目標期間終了時に見込まれる業務実績及び自己評価結果に対する意見聴取ということで、前回御質問をいろいろいただきましたので、それについての御回答をまずNEDOからしていただき、その後で評価のコメントをいただくということで進めたいと思います。

それでは、小山理事お願いいたします。

○NEDO小山理事      総務担当理事の小山です。

それでは、画面にお示ししております、第21回NEDO部会の業績評価に係る御質問一覧の資料に従って10分程度で説明をさせていただきます。

2ページ目をご覧ください。最初に、World Robot Summitに期待されるアウトカムを部会長から御質問いただきました。この成果についてまとめております。最初のポツになりますが、ロボット分野というのは新しい需要が世界的に形成されておりまして、またルールや標準が新しくつくられている領域ということになっております。World Robot Summitでは、ロボットの社会実装と研究開発を加速させる。また、ジュニアイベントも開催して優秀なロボット技術者の発掘、育成に貢献するということで取り組んでおります。

2番目のポツですが、具体的な事例を申し上げますと、ツール・イン・ハンドという新しい技術。右下に写真があります。こちらは2018年のプレ大会、東京大会に向けて、日本のシステムエンジニアリング会社が開発しまして、3位に入賞という結果になりました。その後、World Robot Summitフォーラムで技術交流することによって、21年度に行われましたWorld Robot Summit2020で、ほかのチームもこの技術を使って、ロボットによる組み立てのチームが2021年度の大会で優勝するということで、そういった組み立て技術の向上に寄与したということがございます。また、災害ロボットでは、標準評価方法をアメリカの研究所と連携しまして、国際的な標準化に向けた手続を進めているところでございます。

アウトカムとしましては、このように世界において日本が中心になって、ロボット分野におけるルール形成、人的ネットワークの形成、技術交流のハブになるなど、エコシステムの構築につながっております。さらに、World Robot Summitで形成された人的ネットワ

ークを活用して、産業界を広く巻き込んで、コミュニティの構築に取り組んでいるところでございます。

次のスライドを御覧ください。理事執行会議の設置の背景と実行に移したテーマについてです。運営会議というのが機関決定する場としてあるのですが、それと別に理事執行会議ということで、目的としては、執行役である理事が業務遂行、組織運営上の課題に対する対処方策を組織横断的に検討する場としております。従来は特にプロジェクトを推進する部門を担当する理事に関しては、推進部長の上において、各事業を統括するという形で事業をしていたのですが、この理事執行会議の場で現場のいろいろな課題などを、各理事から意見することによって、全体の組織運営についての貢献もしていただいて、全体の組織運営がどうなっているかということも踏まえた上で、事業執行していただくということを実現してきております。その結果、組織運営能力は高度化できたと考えております。

具体的にその執行会議の中で実行に移していくテーマとしては、ここに主なものとして3つ挙げておりますけれども、プロパーの育成強化。これは前回も御説明させていただきましたが、プロジェクトマネジメントレベル認定制度、ストラテジーアーキテクト制度、あるいは人材開発室の設置というのはここでの議論がスタートになっております。

2番目のポツ、基金事業の実施体制については、増加する業務をいかに効率的に執行していくかということで、例えばですけれども、検査・契約業務。通常ですと各部ごとに採用配置するということなののですが、組織横断的に活用するという一方で、運営の仕方を見直すということも実現しております。

また、コロナ対策でのBCPの策定、テレワークの課題の抽出、それを踏まえて、新しい働き方に対応するためのガイドライン策定もここでの議論を基に実施しております。

次のスライドを御覧ください。NEDOと他省庁・関係機関との連携ということで、ここでは2つ挙げさせていただいていますが、まず、技術戦略の策定における連携ということと、TSC、技術戦略研究センターにおいて、新しくゼロエミ農水連携ユニットを創設いたしまして、農水省、経産省、NEDOの間で検討を重ねて、先導プロジェクトも開始しております。

また、JSTとの間でも、特にTSCとそのカウンターパートである研究開発戦略センター、CRDSとの間で定期的な会合を行うことによって、JSTの技術シードをNEDOの先導研究につないでいくというような取組も実施しております。

次の項目、グリーンイノベーション基金につきましては、基金の中で国交省、農水省、環境省のプロジェクトが企画されて、NEDOで実施を担っているというようになっておりまして、その関係で国交省、農水省の職員の方が実際にNEDOに出向していただいて、下に掲げるようなプロジェクトを実施に移しているというところでございます。

次のページを御覧ください。スタートアップの関係です。後半、14ページ以降に、竹内委員からあったネットワーク支援の資料をつけさせていただいていますが、このページでは、NEDOがこういった形で他機関と連携しているかということでございます。

1 番目のポツについて、政府系の独法 9 機関で支援機関の連携協定、通称 P l u s とっておりますけれども、こちらを2020年 7 月に創設して、連携してスタートアップ支援に取り組んでいるということでございます。

2 番目のポツは、自治体との情報交換を実施しております。

さらに、大学と連携しておりまして、16の大学と覚書を締結して、事業の専門家の派遣、学内起業コンテストへの協賛等を行っております。

最後のポツですが、J-Startup関係でも経産省や J E T R O と協力して、21年度については50社を選定することに貢献させていただいております。

6 ページを御覧ください。水素サプライチェーンについてです。こちらは事業の中では25年なのですが、サプライチェーン構築につきましては今年度まで実施ということ。2 番目のポツになりますが、すいそふろんていあを運用するというのを21年度に開始しております。こちらは事業終了後も国際規格のために必要な航行データを取得するという事で活用していくことを検討しております。

次のポツです。グリーンイノベーション基金でも水素サプライチェーンのテーマがかかっておりまして、上の交付金事業で得られた技術的な知見をこれに生かしていく。具体的には、船の水素タンクの断熱構造などの知見を大型基金事業で活用していくということを考えております。あわせまして、企業のコミットメントを得て、グリーンイノベーション基金の中では2030年の社会実装を目指しております。

次のページを御覧ください。こちらは部会長から質問いただきましたカーブアウトベンチャーについてです。スタートアップ支援の中では、その性格上、みなし大企業、子会社は対象外ということで、具体的には大企業複数の比率が3分の2を超える場合、あるいは単一の大企業が2分の1の比率の出資をする場合というのはみなし大企業になりますので対象外ですけれども、それ以外についてはスタートアップ支援の対象ということで、スタ

ートアップ支援を実際に行っております。

右側に1つ事例を挙げていますが、本田技研からのカーブアウト。本田が20%出資するベンチャー企業ですが、この支援も21年度のNEP事業の中で実施しているというところになっております。

8ページを御覧ください。熊崎委員から、追跡調査で100%ということで、事業者の声がどれくらい聞いているのかについて御質問がありましたけれども、まず、追跡調査につきましては、NEDOプロジェクトで得られた成果の活用状況を中心に聞いております。また、別途、NEDOの委託・助成事業に関する業務改善アンケートを実施しております。こちらの21年度は9月から22年度5月末まで実施しまして、改善要望が282件。小川委員から質問がありましたけれども、システム関係のいろいろな改善要望もこちらに入っておりまして、大体20件、30件ですので、1割程度はそういった中からのシステム関係の改善要望という形になっております。改善要望を踏まえまして、学生研究者の扱いであるとか、テレワークの従事の継続的な運用などの見直しを実施しております。

次を御覧ください。表彰制度になります。こちらも熊崎委員から御質問いただきましたが、直近の21年度、第2回目は18名、3チームを選定し、表彰式を実施しております。部門は、個人の表彰が事業推進賞、組織運営賞、若手激励賞、3つになっております。業務改善特別賞はグループの表彰ということで、21年度は3チーム。フリーアドレスオフィスの設置、研修制度の見える化、新入社員の業務改善の取組を④で表彰いたしました。

10ページを御覧ください。こちらは改善要望の件数。見込み評価の29ページに書いておりました。こちらは理事長のイニシアチブで業務改善室を立ち上げて以降、業務改善要望を受け付けております。全体で300件弱ですが、システム関係がそのうちの4割以上を超えております。下に事例が書いてありますけれども、ここで得た要望を踏まえてマニュアルを作成したり、マニュアルのアクセス性を向上したり、あるいは議事録を一括してアウトソースするというような業務改善を実施してきているところでございます。

次のページを御覧ください。NEDOの特別講座は分厚い資料の5と6に書いてありますが、こういったところをターゲットにしているかということで、簡単に申し上げますと、大学でのいろいろな講座とのすみ分けという意味で、ターゲットとしては社会人を想定しております。令和3年度はここに書いてある7つのテーマで実施しております。拠点に大学等が含まれていますが、大学の施設であるとかスタッフのノウハウなどを活用しつつ、対象としては社会人の方に対しての実施となっております。

12ページを御覧ください。最後に、航空機の技術開発についてです。一番下のところにありますように、基金事業における航空機プロジェクトは、航空機そのものを開発するのではなくて、日本が高付加価値、高価値かつ優位性を持った部材、水素のエンジン燃焼器、水素タンク、あるいは複合材料のさらなる軽量化といった部分の技術開発を行っていくということになっております。

MR Jも同様でして、NEDOは要素技術開発の一部を担っていたということになっております。全体のMR Jのプロジェクトに関しては、国においての産業政策、施策の方向性が示されてきている中で取り組んでおられまして、NEDOは必要な技術開発を実施する。これはMR Jのときも、今回の研究でも不変であるというところでございます。

私からの説明は以上です。参考資料には、去年の業績評価の中で特にネットワーク支援という形でスタートアップの関係に取り組んだものを掲載しております。

最後に、半導体立地の関係の予算の資料。これはスキームを御覧になっていただければ分かるのですが、国が大きな方針を決めてNEDOが執行する体制でやっていくということがこの資料からも見てとれるかと思います。

以上でございます。

○渡部部会長     ありがとうございました。では、ただいまの説明について何か委員の先生方からコメントがございましたら、いただければと思います。よろしいでしょうか。

1点だけ。先ほどロボットコンテストのところで、国際標準の手続をNISTと着手と書いてありますが、これはISO等にすでに提案がされているということなののでしょうか。

○NEDO小山理事     確認をしますので、また後ほど正確なお答えをさせていただければと思います。

○渡部部会長     国際標準化の契機になったというのは、アウトカムとしては評価できると思うのですが、正確な現状を確認できればと思いました。

○NEDO小山理事     会議が終わるまでにはこの場でお答えさせていただければと思います。

○渡部部会長     ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ここまでの内容で御評価をいただくということになるかと思いますが、よろしいでしょうか。

そうしましたら、今回御説明させていただいたのが令和3年度の業務実績と自己評価結果、第4期中長期目標期間終了時に見込まれる業務実績については、これを評価に資するような形で、高く評価できる要件や、さらなる努力を要する点などについて御意見をいただいて、評価結果に使わせていただくということになります。

今日は全員からの御意見をいただきたいので、あいうえお順で氏名してもよろしいでしょうか。皆さんから御発言いただくということでお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、高井委員からよろしいでしょうか。

○高井委員 高井です。

御説明ありがとうございます。私としては特にコメントするところがなくて、コメントすることがないかというのでは駄目でしょうか。きちっと業績が出されていて、評価されているので、妥当な評価点ではないかなと考えております。

以上です。

○渡部部会長 竹内委員、入ってらっしゃいますか。

○竹内委員 入っております。

○渡部部会長 それでは、評価に関する御発言をいただければと思います。

○竹内委員 ありがとうございます。私も高井委員と同じく、異議はございませんので、あまりコメントするところがないなあと考えております。前回の御説明に引き続き、詳細な点も今回補足をしていただきまして、非常によく理解することができたと思っております。自己評価していただいているところに違和感を覚えるところは特にはないと思っております。

一方で、先程部会長からの御意見にもありましたけれども、国際的な動きの中で、標準化等については、もう少しお話を伺いたいと思っておりますが、評価のところについて疑問に思っている点はございませんので、またご議論させていただければと思っております。

以上でございます。

○渡部部会長 では、羽生委員は今入っていらっしゃいますか。

○羽生委員 羽生です。お疲れさまです。

○渡部部会長 お願いします。

○羽生委員 全体を通して、適切に説明いただいたという印象です。1点だけ、たしか前回は議論になったと思うのですが、評価の基準について、S評定の基準は世界初とか、世界最高水準というだけではなく、実用化にむけての展望を示したほうがいいのではないかと。我々大学人は、世界初で論文を書くのはいいのですが、論文を書くので終わらないようにという点が、論点になっておりますので、その辺、何か今後工夫をいただく方が良くないかと思いました。

私からは以上でございます。

○渡部部会長      ありがとうございます。熊崎委員、いかがでしょうか。

○熊崎委員      熊崎です。

御説明ありがとうございました。

コメントでございますが、業務運営の効率化の表彰制度は、非常にモチベーションにつながったというお話で、とても良い取組と思っています。成果が見えやすい業務に当たっている特定の職員だけでなく、陰ながら頑張っている職員、例えば労務管理などで、組織に貢献している職員にも光を当てていただけると、様々な人が活躍しているという実感の持てる組織になるのではないかと思いますので、今後御検討いただければ大変ありがたいと思います。以上です。

○渡部部会長      では、先に、先ほどの評価のところ、S、A、B、Cの一覧表になっているものを見ますと、皆さんS評価でよろしいということであれば、応援してあげないといけないと思います。これは産業技術のところ、先ほどこの項目で聞いたのが、羽生委員からもありましたけれども、学術的には素晴らしいというところに加えて、やはりアウトカム及び社会実装へむけて目覚ましい成果がどれぐらい言えるかというところが1つの論点になるのではないかとということで、今日説明していただいたWRSの国際的な標準化に向けた工程表の話は、本当にこのイベントを契機に国際標準が進んでいるということであれば、それは1つ評価ができるのではないかと思います。

もう一つは、人工光合成の10%の効率。これも学術的には素晴らしいと思うのです。ただ、10%の効率で、それがそのまま実用化に結びつくということではないけれども、同時にやっていた大面積のところですか。100平方メートルのパネルが実用化に今後注力するということで、多分この2つは並立で書いているのだけれども、多少やはりインタラクションがあるはずかと思うところ。そこはうまく説明されていないのですが、この2つを並列で見ても、特に学術的な面での評価は恐らく非常に立派なものだと思います。それから、実用化を同時に進める知見として捉えれば、そこは評価できるのではないかと思います。

例えば、これを大阪万博のところに設置しますとか、そういうのがあるとインパクトがあるかもしれないと思いました。

あと、スタートアップがここしばらく、中長期の期間で取り組んでこられて、今まで大企業しか参画できていなかったのが、ここまで成果が上がってきている。今日御質問させていただいたカーブアウトのところ。これが多分今後、大学発だとかそういうのは、



最近やはりそれなりに実績が出てきたところだと思うのですけれども、日本の産業構造から見ると、大企業のみにもいろいろリソースがあって、それがアメリカなどだとスピノフだとかカーブアウトだとかがいっぱい出てくるのが桁2つぐらい足りないと思うのです。だから、こういう取組が現在されているというところは意味があるのではないかと感じました。

あとは、組織の運営で理事長のイニシアチブでというところは、やはり仕事がすごく増えて大変だと思うのです。それは組織的にしっかりガバナンス運営をしようという姿勢が、今まで多分こういう御報告はそれほど記憶に残っていませんので、そういう意味では、今回非常に業務が増えている中で、しっかりそこに取り組まれたということについては評価ができるのではないかと思います。

私としてはそんなところなのですから、ほかの委員の方々から追加で何か御発言がありますでしょうか。よろしいですか。

○渡部部会長　ぜひ他の委員の方からももう少し加えて御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

○竹内委員　竹内でございます。では、私からよろしいでしょうか。

ありがとうございました。これまで数年間NEDOさんの評価委員会に関わらせていただいている中で、やはり成果といいますか、いろいろと花が開いてきたものもありますし、経年で見させていただくというのはこちらも非常に勉強になるなと思っておりましたという感想でございます。

技術を生んでいくということと、規制というのでしょうか。先ほどの部会長のお話でも本当にそうだなと思ったのですけれども、例えば環境金融とかが今非常に多くなってきている中で、何をグリーンな技術とするかといったような辺りの議論に勝てないと、せっかくいい技術があったとしても、それが国際マーケットになかなか打って出ることができないというようなことが往々にして起こりがちで、そこについての基準策定に向けての議論というのは、本当に体力を要しますし、産業界だけでやはり太刀打ちすることができないと考えております。国と民間が連携して戦っていく、主張していく必要がある中で、やはりNEDOさんとかに期待される役割というようなところも大きいのかなと思っていますところで、そうしたところでもNEDOさんのお力に期待したいと思います。日本が技術で勝っても、なかなかマーケットで勝てないというようなところが起こりがちな中で、そういったところへの御支援というところもぜひ積極的にお願いをしたいです。

また、私自身も会社をつくって環境エネルギー分野のスタートアップ支援をやっている中で、NEDOさんがそういった我々のプラットフォームと協働したいということで出てくださって、NEDOさんのスポンサードのスタートアップピッチなどをやらせていただくというような、民間のプラットフォームとNEDOさんのプラットフォームが連携するというようなところもかなり出てきていますので、そういった動きをぜひ続けていただけるとありがたいなと思っております。

○高井委員　高井です。一言だけよろしいでしょうか。

○渡部部会長　お願いします。

○高井委員　私も随分長く本部会の委員をしておりますが、NEDOに対する重要度は増していて、かなり業務量が増えているのではないのかなと思ってまして、それに対して理事長がしっかりとマネジメントして組織をうまく運営なさっていると感じておりまして、もっと評価されてもいいのではないかと個人的には思っています。業務運営に関するこのを着々とやっているというのは確かに分かるのですけれども、多くの業務をかなりうまくまとめているというのが、ほかの組織と比べて優れているのではないかなと思っています。また、少し前から比べて、今は格段と成果を出せるような仕組みができているのかなと思います。

よろしければ現場で働いている方のモチベーション変化についてお伺いできますでしょうか。

○渡部部会長　NEDOさん、もし隣に理事長がおられたら、現場の方々のモチベーションについて何かコメントいただけますでしょうか。

○石塚理事長　では、今の高井委員の御質問に対して話します。

前回は申し上げた組織の改編や、表彰制度等々、職員の皆様からは、自分たちの取組が正当に評価されることを大変うれしく思うと伺っております。表彰制度については2年行い、職員の間でもかなり浸透しており、表彰された職員を見習って他の職員も努力しないといけないという風土になり、表彰された職員がベンチマークになってきていることは大変うれしく思います。

特に経営企画室をつくったときは、経営陣と職員との風通しが大変悪いなということを書いて、組織を一気通貫につなげたのが経営企画室なのでございますけれども、その中でやはり自分たちの意見がちゃんと経営陣にも反映されているという事を職員達の実感していることはうれしく思っています。

業務改善というのは、日頃自分たちが疑問に思っていること、それから何をしてももらったらもっとよくなるかというところを職員の皆様が一生懸命、自分たちの日常のルーチンの職務の中で考えて、それをNEDOという組織の中に打ち込んでいって、実際それが具現化するという喜びを感じていただいているというのが実態だと思いますので、この制度が根づいて、草の根の活動の1つとなって、NEDO全体の組織のルーツがしっかりとなることを私は期待しております。

○高井委員      ありがとうございました。

○渡部部会長      ありがとうございます。まだ小川委員は入っていないですか。

○小川委員      先ほど入りました。大変遅くなりまして失礼いたしました。

○渡部部会長      全体の評価に関する最終的なコメントをいただければと思います。

○小川委員      御説明を伺えずにコメントして大変失礼なのですが、資料は読ませていただきました。あと、前回の会議のときに御質問したことに対しましても丁寧に回答いただきまして、ありがとうございました。私としては最終的に評価に対しまして特に異議はございません。よろしくお願いいたします。

○渡部部会長      よろしいですか。事務局から追加のコメントがあれば伺いますが、よろしいですか。

○NEDO小山理事    先ほど渡部部会長から御質問いただいた件なのですが、今お答えしてよろしいですか。

○渡部部会長      お願いします。

○NEDO小山理事    現在、先ほどの災害ロボットの件に関しましては、NISTと連携して、今年の6月にASTMという世界最大の標準化団体の委員会で規格化の対象として議題に取り上げられているということです。現在、ASTMの規格として、再現性、運用性等の総合評価が行われております。このような状況になっております。

○渡部部会長      分かりました。先ほどのような趣旨で、その部分は評価できると思いますので、了解いたしました。

それでは、ここまでよろしければ、最後のところの議題3のほうに進ませていただきたいと思います。こちらは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の業務・組織全般の見直し、前回御説明いただきましたけれども、それについての意見聴取ということで、前回御質問いただきましたので、その回答をしていただき、御発言をいただくという形でございます。金地室長お願いいたします。

○金地室長 事務局から回答させていただきます。

前回、小川委員から、施策、事業を効率的に進めるためには、NEDOと関係独法との連携だけでなく、関係府省との連携も深めるべきではないかとの御指摘をいただきました。これにつきましては、先ほどNEDOの資料の4ページにも説明を記載しておりますが、関係省庁及び関係独法とも連携を取りながら進めています。NEDOの資料に記載の無い案件ですと、例えばJSTとNEDOと文科省と経済産業省の4者でも定期的に連絡会を持つとかという形でも進めております。農水省や国交省、環境省等と事業ごとに連携を取りながら進めているという状況もございますので、過去によく言われていた各省庁縦割りというような実態は徐々に解消されてきており、連携を取りながら進めているという状況を御理解いただければと思います。

以上でございます。

○渡部部会長 ありがとうございます。こちら、業務、組織全般の見直しについて追加の御意見等がございましたら、御発言いただければと思います。

前回も申し上げましたけれども、組織全般の見直しというのはこのタイミングでかなり重要になっているのではないかなと思っておりまして、追加していくということだけではなくて、やはり全体の機能的ガバナンスを含めた、いい組織にしていきたいと思いますので、その点はぜひよろしくお願ひしたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。もし全般を通じてでも、何かコメントがある方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。

もしなければ、本日の御意見につきまして、事務局でまとめ、こちらで確認をさせていただくということで、この後の取りまとめについては御一任いただければと思いますが、いかがでしょうか。御異議ないということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

では、そのようにさせていただきたいと思います。

今後の意見の取りまとめの進め方につきましては、事務局から御説明いただければと思います。

○金地室長 各委員の皆様におかれましては、貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。2度の部会で委員の皆様からいただきました御意見の取りまとめにつきましては、先ほど渡部部会長一任とさせていただきましてので、事務局で取りまとめ、渡部部会長に確認をいただいた上で、NEDO部会答申とさせていただければと思ひ

ます。その後、経済産業省国立研究開発法人審議会・渡辺治会長へ報告をさせていただき、その報告をもって、経済産業省国立研究開発法人審議会の答申とさせていただく予定でございます。また、その答申を踏まえまして、主務大臣評価を行ってまいります。

以上でございます。

○渡部部会長　渡辺先生が全体の会長になられたので、渡部から渡辺に答申がされるという形になりますが、そういうことで進めさせていただければと思います。よろしいでしょうか。

もし特に何もないようであれば、以上をもちまして本日のNEDO部会はこれで閉会させていただきます。ありがとうございました。

——了——